

喜界島は世界でも類のないスピードで隆起するサンゴ礁の島だ。年間2ミリずつ上昇を続けており、パプアニューギニアやインドネシアのスンダ列島に次ぐ速さという▼東京大学海洋研究所の横山祐典准教授（古気候学）は、この島を「宝の島」と呼ぶ。普通なら深く潜らないと採取できない数万年前のサンゴが地表にゴロゴロしているからだ。サンゴには、気候変動を予測するのに必要な水温や塩分濃度などの気象情報が蓄積されている▼横山さんは先月、喜界島の沖で国内最大級のハマサンゴを見つけた。直径4メートル、高さ5メートル。年輪から、400年も前に誕生したことが分かった。「これほど長期の気象情報を刻むサンゴは世界でもほかに2例しかない」と驚く▼このハマサンゴが、地球温暖化のメカニズムを解明する大きな手がかりになるという。温暖化は18世紀後半の産業革命以降の人間活動が主な原因だが、その前後の気象情報を月単位で取り出すことが可能になる▼ハマサンゴを見つけた数日後、横山さんは喜界町の湾小学校で出前授業をした。ちょっと難しい話に耳を傾けた5年生の若松夢路さんは「私たちの島ってすごいと思った」と目を輝かせた▼喜界島での研究成果は気候変動に関する政府間パネル（IPCC）に反映されるという。子どもたちも気付いた足元の宝が、地球を救うヒントを教えてくれるかもしれない。

[トップへ](#)

記事・画像等の一切の無断転載、二次利用をお断りいたします。これらの著作権は南日本新聞社または各情報提供者にあります。

Copyright Minami-Nippon Shimbun. Allrights reserved.